

拠点校名 水戸市立柳河小学校

連携大学 常磐大学

研究主題 学ぶ意欲をもち、自分の考えを表現できる児童の育成
～他者と関わり合い、主体的に活動できる場の工夫を通して～

1 主題設定の理由

本校は、水戸市の北側に位置し、那珂川沿いにある学区で、周囲は田畑に囲まれた市内でも比較的のどかな地域に位置している。年々児童数は減少しており、現在は水戸市内で最も小規模な小学校である。全学年が単学級でクラス替えもなく進級していくため、人間関係が固定化されやすく、多様な意見に触れ合う機会が少ないことが課題である。また、学校生活アンケートでは、「学校の授業では、すすんで学習に取り組んでいる」と回答した児童は85.5%（7月）であったが、「授業中にすすんで自分の考えを発表できる」と回答した児童は72.7%（7月）であった。このことから、学習への意欲はあるが、自分の考えや思いを表現することに苦手意識があると考えた。そこで、他者との関わり合いの中で、だれもが「自分の考えを表現したい」という意欲をもち、自分の考えを進んで表現できる児童の姿を目指し、本主題を設定した。

2 研究のねらい

昨年度は、大学と連携することで、小学校だけでは学べないダイナミックな学びを通して、SDGsへの理解を深めた。

今年度は、児童がSDGsへの理解をさらに深めるため、SDGsについて自分が学んだ（興味をもった）ことについて実践を通してさらに学びを深めることをねらいとした。児童は、持続可能な社会をつくるために自分ができることを考え、具体的に実践することで、社会に貢献していることを実感するとともに、理屈では理解しても実際に実行するために解決しなければいけない課題に向き合うことになる。

それぞれの課題に直面したときに、学級内、学年を越えた異学年グループ、大学生と多様な他者と意見交換する場を設定することで、自分では気付かなかった視点でアドバイスを受けたり、評価、称賛されたりする機会を得られるようにする。

また、地域の大人に自分の取組を伝えたり、評価していただいたりする場を設定することで、自分のSDGsへの取組に自信をもたせる。

さらに、一人一人がばらばらに行動するよりも集団で活動することによって大きな効果が得られることに活動を通して気付かせる。

このような活動全体を通して、学ぶことを楽しむ児童を育て、児童の学ぶ意欲と表現力を高めたい。

3 具体的な取組内容

(1) 教師の授業力・資質向上について



- 1 日時 令和5年8月21日(月)
- 2 場所 柳河小学校 図書室
- 3 参加者 柳河小学校職員
常磐大学生
- 4 内容 「子どもたちの探究力を引き出す
教師の役割」
- 5 実施方法 対面
- 6 講師 常磐大学 石崎友規先生

7 実施内容

教職員が抱えていた課題「探究的な見方・考え方ははたらかせるための導き方」「探究に取り組む学習意欲の引き出し方」について、大学の講師による質の高い助言・指導を受けた。それにより教職員の授業力・資質向上を図った。

研修後、常磐大学生と2学期の交流学习の打ち合わせを行い、学習の連携体制を整えた。



(2) 児童の学ぶ意欲と表現力向上への取組について

①大学生による児童との探究づくりの授業実践

- 1 日時 【第1回】令和5年7月4日(火)
【第2回】令和5年10月4日(水)
【第3回】令和5年11月6日(月)
- 2 参加者 3～6年生児童・常磐大学生
- 3 実施方法 【第1回】オンライン(meet)【第2・3回】対面



【第1回】

児童が個人で取り組んでいるSDGsアクションについて発表し、大学生から感想やアドバイスをもらうなどの交流活動を行った。



②全校児童による常時SDGsアクション

水道の近くにポスターを掲示し、水を大切に使うことを呼びかけた。



食品ロスをなくすための取組。給食完食5回でパズルの1ピースを配布した。



牛乳パックを洗って、乾かして、リサイクルする取組。



③地域交流「やなかわふれあいまつり」で発信及びSDGsアクション

- 1 日時 令和5年11月12日(日)
- 2 参加者 全学年児童 地域の方々
- 3 実施内容等

地域交流の場である「やなかわふれあいまつり」で、縦割り班ごとにSDGsについての説明や各自が取り組んでいるアクションについて発表した。また、SDGsの取組を地域の方に呼びかけた。児童は、リユースコーナーや分別コーナーを設置し、活動した。



④ 3・4・5・6年生による縦割り班学習～Google クラスルーム活用

- ア SDG s 2番「飢餓をゼロに」
- イ SDG s 12番「つかう責任つくる責任」
- ウ SDG s 14番「海の豊かさを守ろう」
- エ SDG s 15番「陸の豊かさも守ろう」



Google クラスルームを活用して、個人のアクションをドキュメントに記録した。また、大学生もメンバーとしてSDG sアクションに参加したり、児童のアクションにコメントをしたりした。

4 成果（進捗状況と今後の課題）

職員研修では、教師は、探究的な学習の授業の進め方について学び、児童の意欲を高めるための教師の指導の在り方や個々の児童へのアドバイスの仕方、ゴールの設定、評価の仕方などを学ぶことができた。これは、総合的な学習の指導だけでなく、教職員の指導力向上につながった。「大学の講師による校内研修は、自分の指導力向上につながった→はい100%」（教職員アンケート）

2年間の「大学との連携事業～みと☆Future College～SDG sへの理解」を通して児童は世界で起きている問題が、自分たちの身近な問題と繋がっていることにも気付き、SDG sへの理解を深めた。また、自ら考え、アクションを起こし、大学生や地域に発信する活動を通して、表現力が深まり自己有用感が高まった。

今後、児童のSDG sへの取組を日常の中に浸透させて持続可能にしていくことが課題である。

（児童の振り返り：Google ドキュメントより）

振り返り
 去年僕たちはSDGsを知ることから始まりました。最初はSDGsに、興味はなかったし、やろうともしませんでした。でも取り組んでいるうちに僕たちにもできることがあることを知りました。そして取り組んでいくうちにもっと取り組みたいと思いました。これからももっともっと取り組んでいきたいです。

1年間の振り返り
 ペットボトルを分別したり、ご飯を毎日残さず食べました。また、マックのおもちゃのリサイクルなど初めてやってみました。これからいろいろなSDG sに取り組んでいきたいです。そして、ほぼご飯を完食したことしか書いていないので家のことだけではなく外のゴミ拾いなどいろいろなことをやっていきたいです。

1年間で取り組んできたもの

- ・ご飯を残さず食べる
- ・ゴミを分別
- ・エアコンを2.7度にして節約